

今日へと旅する
Journey to today

宮原野乃実
miyahara nonomi

Gallery P A R C
GRAND MARBLE





《ざくろ#67》

2020

陶製手榴弾 ジオラマ模型 新うるし 真鍮粉
128×130×105 mm

本展作家である宮原野乃実さんは、2020年のGallery PARC主催の公募展「Gallery PARC Art Competition 2020」においてプランを採択し、2020年7月に発表を予定していたアーティストでしたが、Gallery PARCがその開催を前に活動を中断したことで発表が延期となっていました。本展はその内容において当時の採択プランの忠実な再現ではありませんが、延期させていただいた宮原さんの発表の機会として実施いたします。公募展として募集・採択したにもかかわらず、発表延期・活動中断の申し出を受け入れていただいたこと、そしてその展示を3年越しに再開できたことについて宮原野乃実さん並びに公募にご尽力いただいた各位に感謝いたします。

Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パーク]では、2023年8月5日(土)から27日(日)まで、宮原野乃実による個展「今日へと旅する:Journey to today」を開催いたします。

宮原野乃実(みやはら・のみ / 東京・1992～)は、ある地域の川原に大量に捨てられていた陶製手榴弾(第二次世界大戦末期まで日本で作られていた)の上に、周辺の住宅街の街並みをジオラマとして組み合わせた《ざくろ》、海岸に流れ着いたどこかの国の陶片や人工物と、積み上げられていく海上輸送コンテナの風景を重ね合わせた《DRIFT》、海岸沿いに残る戦争遺構のコンクリート片に、その場に投棄・漂着した現代の生活ゴミをミニチュアで再現した《誰かの基地》など、時間や歴史(来歴)を語る陶磁器と、身の回りの日用品などを組み合わせた作品を制作・発表しています。

『私という存在や私が置かれた現在が、過去の歴史や出来事とどう繋がっているのか、実感を持てずにいることがあります。』と語る宮原にとって、これらの作品(行為)は、過去の出来事や歴史を自分なりに追体験してみることであり、「現在の私」との関係を見出そうとするものであるといえます。

とりわけ宮原は「第二次世界大戦」という歴史的史実と自分自身との距離感をより具体的に扱うため、積極的にリサーチやフィールドワークにも取り組みます。小笠原諸島へのリサーチをきっかけに抱いた「歴史や情報を通して見る景色はどう見えるのか」という問いは、組み合わせた素材とオーガンジーによる作品《幽霊のいる島》で思考されました。映像作品として制作された《砂糖王国旅行記》は、1920年代に「シュガーアイランド」と呼ばれていた南大東島とサイパン島を「生き別れの双子のような島」と捉えた上で、「過去の歴史を参照しながら恣意的な眼差しで物語を編むことはできるのか」について考え、現在では全く似ていない2つの島の風景を結びつけようと目論んだものです。

陶磁器と日用品を組み合わせる宮原の作品は、どこか呼び継ぎ(割れたり欠けたりした器の足りない部分を異なる陶片で埋める技法)に似ていると言えるかもしれません。呼び継ぎには、欠けた器に対して陶片のカタチや径、厚みや色、土の種類などを合わせることで、欠損を補完するようなものもあれば、異なる素材、異形や異質を半ば強引に組み合わせるものもあります。宮原はとりわけ異なる要素を組み合わせる手法によって、ひとつの存在の中でそれぞれの違いが明確に意識されるとともに、そこに新たな見立てや見所を発見し、目の前の景色を確認するかのようです。

『現在に私が立っている場所の輪郭が今までよりも確かなものになるように、近くて遠い過去をなぞりながら、今日に向かって旅を重ねていく』と語る宮原にとって、本展「今日へと旅する:Journey to today」は、《ざくろ》や《DRIFT》などの陶磁器作品から、映像作品《砂糖王国旅行記》までの取り組みを一堂に展示し、これまでの軌跡とともに、現在の自分の位置を確認する機会となります。



《DRIFT #27》

2022

陶片 ジオラマ模型 セメント ポリスチレン 新うるし 真鍮粉
165×370×280 mm

展覧会名 **今日へと旅する**
Journey to today

出展作家 **宮原 野乃実**
miyahara nonomi
<https://www.miyahara-nonomi.com>

会 期 **2023年8月5日[土]～27日[日]**
13時から19時まで 水・木休廊

会場・主催・お問い合わせ

ギャラリー・パルク

602-8242 京都府京都市上京区皂莢(さいかち)町287 堀川新文化ビルディング 2階 MAP
075-334-5085 info@galleryparc.com www.galleryparc.com

- 地下鉄烏丸線「丸太町」・「今出川」駅より徒歩約20分
- 地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩約18分
- 京都市バス9番・50番(JR京都駅から約22分)・12番(阪急烏丸駅から約15分)・67番(阪急大宮駅から約12分)系統「堀川中立売」バス停下車徒歩1分
- 駐輪場・駐車場 有 ※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。



《幽霊のいる島(小笠原) #1》

2018

珊瑚 鯨の歯 陶片 ジオラマ模型 セメント 新うるし 真鍮粉 オーガンジー
200×210×180 mm

宮原野乃実
miyahara nonomi

1992 東京都生まれ

2015 京都造形芸術大学 美術工芸学科 総合造形コース 卒業

2023 CERAMIX (西武渋谷店美術画廊 / 東京)

Kyoto Art for Tomorrow 2023—京都府新鋭選抜展— (京都文化博物館 / 京都)

2022 〔個展〕海辺の輪郭 (3331 CUBE shop&gallery / 東京)

KAICA TOKYO AWARD 2022 (KAICA 東京 by THE SHARE HOTELS / 東京)

2021 Collectors' Collective vol.4 Osaka (テツカヤマギャラリー / 大阪)

2020 〔個展〕透けるレイヤー 結んだ景色 (広島芸術センター / 広島)

2019 〔個展〕YESTERDAY'S GHOST (谷居 GuJu / 台北)

〔個展〕YESTERDAY'S GHOST (CLEAR GALLERY TOKYO Viewing Room / 東京)

群馬青年ビエンナーレ (群馬県立近代美術館 / 群馬)

2017 〔個展〕ここは昨日の塵の上 | 今日建つは昨日之上 (居藝廊 G.Gallery / 台北)

〔個展〕どっかで誰かが見た景色 (GALLERY ART POINT bis. / 東京)

シブヤスタイルvol.11 (西武渋谷店 美術画廊 / 東京)

"FOCUS" UNKNOWN ASIA GROUP SHOW (DMO ARTS / 大阪)

2016 TDW art fair 2016 (神宮外苑 / 東京)

同じ窓の位相 (ARTZONE / 京都)

UNKNOWN ASIA ART EXCHANGE OSAKA 2016 (ハービスホール / 大阪)

SICF17 (スパイラルホール / 東京)

2014 〔個展〕かわるかもしれない (ギャラリーマロニエ / 京都)

1mm (ギャラリーマロニエ / 京都)

2013 京都同時代学生陶芸展 (元立誠小学校 / 京都)

【アートフェア】

2021 3331 ART FAIR 2021 (3331 Arts Chiyoda / 東京)

2019 ARTISTS' FAIR KYOTO (京都文化博物館 別館 / 京都)

2017 ART OSAKA (ホテルグランヴィア大阪 26階 / 大阪)

ART in PARK HOTEL TOKYO 2017 (PARK HOTEL TOKYO / 東京)

2016 art fair sapporo 2016 (CROSS HOTEL SAPPORO / 札幌)



《Sugar kings》

2020

サトウキビの糸、陶器

玉置(左): 250×80×70 mm 松江(右): 255×75×70 mm



《砂糖王国旅行記 zine》

2020

A5サイズ(148×210 mm)

今日へと旅する

Journey to today

私はこれまで、連続する過去からの繋がりや、自らが内包するナショナリズムを薄すばんやりと自覚しているようで、でも具体的な実感もないまま、ふわふわとした感覚を抱えて生きてきました。

私という存在や置かれた環境が過去の歴史や出来事とどう繋がっているのか、それらを具体的に想像し実感するために、私は様々な場所へリサーチの旅へと出かけました。歴史家でも学者でもない私の旅は、正確性も欠けていて、史実のみを追いかめたものではありません。私が見つけた事実と誰かにとっての事実が違っていることもあるでしょう。思い込みも多い恣意的な旅では、完璧な結論に辿り着くことも有りません。それでも、自分自身の腑に落ちる何かを探して手探りで過去を尋ねる旅路は、巡り巡って今日の自分のいる場所へと繋がっていきます。

今日の私が立っている場所の輪郭が今までよりも確かなものになるように、私は近くて遠い過去をなぞりながら、今日に向かって旅を重ねていくのです。

